

組織目標評価報告書（令和7年度）

部局名：グローバル・ディスカバリー・プログラム		部局長名：ディレクター 菅 誠治
目 標		目標に対する達成状況(成果)及び新たに生じた課題等
①教育領域		
	関連する 中期計画の番号	教育領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
1. より多くの優秀な志願者を確保するため、戦略的な広報活動を展開する。 令和9(2027)年度からのGDP改革に向けて、戦略的な広報活動を行う。海外生はもとより、よりGDPに親和性の高い高等学校等の教育機関に対するリクルート活動を活性化させるほか、オンライン説明会の開催等を拡大し、志願者のニーズに合わせて、SNSを通じて広報を行う。 2. 入試について、令和9(2027)年度からのGDP改革に向けて、2年前予告を実施し、高校等への着実な広報活動を行う。また現行の入試においても引き続き改善策を取り入れながら着実に実施する。 3. 学生一人ひとりの学習状況を把握し、ディレクター、メンター及びアカデミック・アドバイザーを中心に、教職員が協働して、適切なアドバイジングやサポートの体制を整備する。 4. キャリア支援の充実に向けて、卒業生の進路を把握し、過去の卒業生や就職先、キャリア・学生支援室及び学内各研究科と連携して、学生の就職や進学をサポートする。 5. 令和7(2025)年度からのカリキュラム変更に伴う教育効果の検証を行う。	(7-1)	1. 国内生向けの広報・リクルート活動として、7月に実施したオンライン入試説明会には約50名、8月に対面で実施したオープンキャンパスには約245名が参加した。さらに、プログラムへの理解を深めてもらうため、オープンキャンパス終了後、希望者12名を対象に個別相談を実施した。また、プログラム独自で9月に実施した国際入試説明会には約35名が参加し、活発な質疑応答が行われた。加えて、国際部と協力し、シンガポール向けのオンラインフェアにも参加するなど、海外志願者の獲得に向けた取り組みを行った。 国際入試Ⅰ・Ⅱ期の出願者数共に過去最高の出願者数となり、国際入試Ⅱ期については、20名の募集人員に対して124名の出願があり、出願倍率は6.2倍となった。 2. 入試については、令和9(2027)年度からのGDP改革に向け、6月5日付けで2年前予告を実施し、詳細については随時入試委員会で検討中である。また、変更点に関して、高校教員対象のオンライン説明会を9月に2回実施し、11校が参加した。現行の入試に関しては、今年度よりTeamsでの実施となったが、滞りなく実施できた。 3. 成績不振の学生に関しては、年2回事務室で資料を作成し、指導教員にも連絡の上面談の場を設けるなど適宜対応している。指導教員で対応が難しい案件等においては、副ディレクターが主導し、メンター、事務室員と連携し対応している。マッチング・トラックに進んだ学生については、マッチング・アドバイザーを中心に副ディレクター、メンター教員等の複数名で連携を取り合い指導をしている。 4. 教職員はMoodle掲示板で随時就職・インターンシップに関する情報を発信し、キャリア支援の充実に努めている。また、岡山の企業3社を迎えてキャリアワークショップを開催し、企業担当者および教職員を含め20人以上が参加。学生が自身の将来のキャリアについて考える機会となった。ホームカミングデーでは、卒業生によるキャリア・進学についての講演を行い、活発な意見交換が行われた。学生支援委員会では、継続して修学支援・キャリア支援を行えるよう、GDPとして実施している各種キャリアイベントの体系化を計画している。 5. 2025年度からのカリキュラムにおいて、GDP独自の課題探究科目「知の探研」を実施した。全学のオンデマンドコンテンツを英訳したオンデマンド学習とともに、グループ活動形式での授業を実施し、リベラルアーツのコンセプトの元、多様な学問的志向を持つ学生同士で協力しながら課題を見出し、課題解決に取り組む姿勢と能力を獲得できた。
②研究領域		
	関連する 中期計画の番号	研究領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
③社会貢献(診療を含む)領域		
	関連する 中期計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
1.GDP学生による、全学的及び地域社会に関わる取組みに対して、引き続き支援を行う。 2.公開講座や高校等への講師派遣を通じて、地域の教育活動に貢献する。	(7-1)	1. <u>学生有志の実行委員会が世界各国のグルメ、ワークショップやステージパフォーマンスを体験できるイベント「The World Kitchen」を昨年度に引き続き5月と11月に実施し、更に4月にTED × Okayama University、12月にGDG(Google Developer Groups)によるDevFestを実施する等、学内の学生への影響にとどまらず社会貢献活動においても活躍の場を広げており、GDPの教職員もサポートとして携わった。</u> 2. 高大連携事業の一環として県内高等学校へ講師を派遣し、地域における教育活動の充実に資する取組を継続的に実施している。併せて、県内の各種審議会等に委員として参画するとともに、高校生のための大学講座を始め多様な公開講座を提供し、地域社会への貢献を着実に推進している。
④管理運営領域		
	関連する 中期計画の番号	管理運営領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
1. 令和6年度に取り纏めた岡山大学グローバル・ディスカバリー・プログラム改革案を元に、令和9(2027)年度入試に向けて、実施体制構築の検討を開始する。併せて新しい入試における学力担保(特に理系)及び入学前教育の実施に関しても検討を開始する。 2.理系教員退職後の教員人事体制等の検討を含む、教員構成の見直しを実施する。 3.令和6年度に策定したGDPにおける運営委員会等諸会議の構成及び審議事項の再定義を踏まえ、着実な実施と、会議運営の合理化、議論の効率化に向けての改善を引き続き実施する。	(7-1)	1. 岡山大学グローバル・ディスカバリー・プログラム改革案に基づき、新入試に向けた実施体制の構築並びに募集要項等の具体的内容について、入試委員会において継続的に検討を行っている。これらは令和8年5月開催予定の教員会議での審議を目指し、順次整備を進めており、計画どおり達成に向けて取り組みが進捗している。 受験生の学力確認については、質保証の観点からも、新入試導入後も引き続き情報収集と分析、検討が必要である。入学前教育に関しては令和7年度入学生からKhan Academy等オンライン学習サイトの利用を促し、評価を行ったが、引き続き検証と活用の検討が必要である。 2. 現在の教員構成を踏まえ、GDPIにおける理系のあり方を検討し、文理融合の架け橋となるデータサイエンスを軸とした構想を策定した。関係部局とも引き続き協議を行い、退職教員の後任採用に向けた調整を行う。 3. 令和6年度に策定したGDPにおける運営委員会等の諸会議の構成及び審議事項の再定義に基づき、令和7年度からは各会議で審議・報告すべき議題を整理するとともに、審議に必要な時間を事前に明示する運用を開始した。これにより会議進行が円滑になり、会議時間の大幅な短縮に繋がった。引き続きプログラム内における諸会議の運営及び業務の一層の効率化を図る。
⑤センター・機構等業務		
	関連する 中期計画の番号	センター・機構等業務における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。
注2) 自己評価による達成度(5～1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。